

鳥取市の教育改革

「学校2学期制」で学校がかわります



地方分権の流れのなか、これまで以上に鳥取市にふさわしい教育行政を積極的にすすめていくことが必要となってきました。

鳥取市では「まちづくりは人づくりから」の視点にたち、次代を担う子どもたちを育む教育の充実のため教育改革を進めます。その施策として、学校教育を見つめなおし、「自立し創造的な学校づくり」が進められるよう、『学校2学期制』の導入に向けて取り組んでいます。

今回は、『学校2学期制』の概要や導入の目的などについて紹介します。

学校を取り巻く状況

平成十四年度より始まった「学校週五日制」と新しい「学習指導要領」の完全実施は、明治の学制発布、戦後の教育改革に次ぐ大きな変革を学校にもたらしました。

市内の小中学校では、この変革に対応し子どもたちに「生きる力」や「確かな学力」を身に付けるために、新しく設けられた「総合的な学習の時間」の工夫、少人数指導、基礎基本の徹底などを行い、子どもの成長にとってよりよい指導・支援ができるよう努力しています。しかしながら、不登校の増加、規範意識やモラルの希薄化、仲間づくりの上での多くの課題が日常的に発生し、専門的な対応も必要になってきています。

「学校2学期制」導入のねらい

このような多くの課題や複雑化する問題をより確実に解決する学校づくりを進めるためには、時間的、空間的、精神的な「ゆとり」を保障し、その「ゆとり」をとおして子どもと教師の関わりを充実させるなど、「子どものためになる教育」の実現に向けた環境整備が必要となります。

そこで、学期の区分を三学期制から二学期制に変えることによって、「ゆとり」をつくり、各学校独自の学校づくりをすすめるややすいよう環境を整えます。そして、子どもたちが生き生きと生活し、将来にわたっても「鳥取に生まれ、鳥取で育つてよかった」と実感できる教育の推進を目指します。

「二学期制」実施中のモデル校では

校長先生に聞きました

「二学期制がきっかけとなって、教育課程をはじめとする教育全体を今よりよい方向へ変えていこうとする先生方の意識が芽生えてきています」

検討委員会では

PTA代表に聞きました

「各学校がそれぞれ本校の特色は何かを考え議論することが大切です。PTAも先生方とともに学校づくりを考えることは大きな意義があると思います」

